

再び持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復が続いている



県内景気の動向

現状 製造業の生産活動は全体に在庫調整に入っているものと考えられるが、一部の業種では増産の動きがみられる。需要面では、マイナス幅が縮小ないしは前年を上回る指標が出はじめ、消費税増税に伴う反動減の影響は徐々に薄れてきたとみられる。したがって県内景気の現状は、再び持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復が続いていると考えられる。

項目毎にみても、県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、水準は引き続き窯業・土石製品や化学などは低いものの、電気機械や輸送機械、食料品などは高く、前月に比べると鉄鋼や輸送機械、繊維などが上昇したため、原指数は8か月連続のプラス、季節調整済指数も3か月ぶりに前月を上回った。ただ、出荷と製品在庫の状況を見ると、引き続き意図せざる在庫増加局面にある。

需要面では、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響は徐々に薄れてきたとみられる。全店ベースの大型店売上高は、ウエイトの高い食料品が全体をけん引し好調が続いているため、他の品目の大幅マイナスをカバーし、4月から3か月連続の3%台となっている。乗用車の新車登録台数は3か月ぶりのプラスとなり、軽乗用車の新車販売台数も好調が続いている。また、新設住宅着工戸数は持家が6か月連続のマイナスとなっているものの、貸家と一戸建て分譲住宅が大幅増加し、全体では5か月ぶりに前年を上回った。さらに、民間設備投資では民間非居住用建築

着工床面積の3業用計が2か月連続の大幅プラス、トラックの新車登録台数も9か月連続のプラス、公共工事の請負件数は5か月連続、金額も6か月連続の大幅プラスとなっている。しかし、雇用情勢をみると、新規求人倍率は高水準が続いているものの、有効求人倍率は再び1倍を下回った。今後の動向を注視する必要がある。

今後の動向 生産活動面では再び回復基調に戻り、需要面では個人消費関連から投資関連へと回復の動きが徐々に広がるとみられるが、そのスピードは緩慢であるため、全体的には緩やかな回復基調が続くものの、今しばらくは弱含みの状況にとどまるものと思われる。

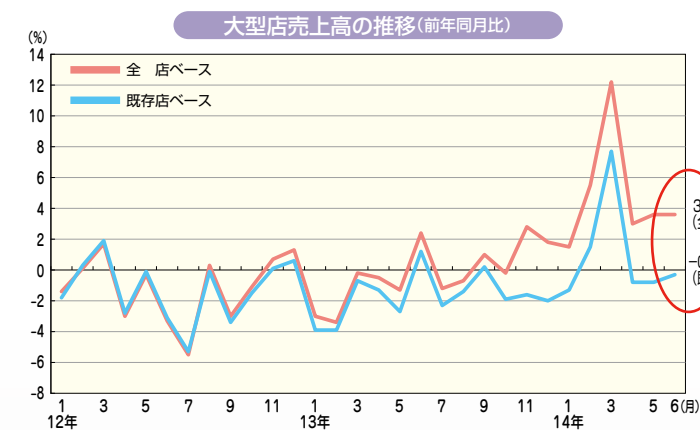
詳しくみると、県内製造業の生産活動は、国内需要が底堅く推移するとみられ、海外需要も米国景気の本格的な回復が期待されるため、消費税増税後の在庫調整は比較的短期間で終了し、再び回復基調に戻ると思われる。

需要面では、個人消費については、光熱費の上昇や消費税増税、物価の上昇などのマイナス要因から消費マインドは厳しさが残るとみられるが、賃上げや残業代の増加などによる家計収入の増加が見込まれ、回復に向かうと思われる。また、新設住宅着工などの投資関連需要についても、駆け込み需要が大きかった分、持ち直しが遅れるとみられるが、徐々に回復に向けて動き出すものと考えられる。

「乗用車新車登録台数」は3か月ぶりのプラス

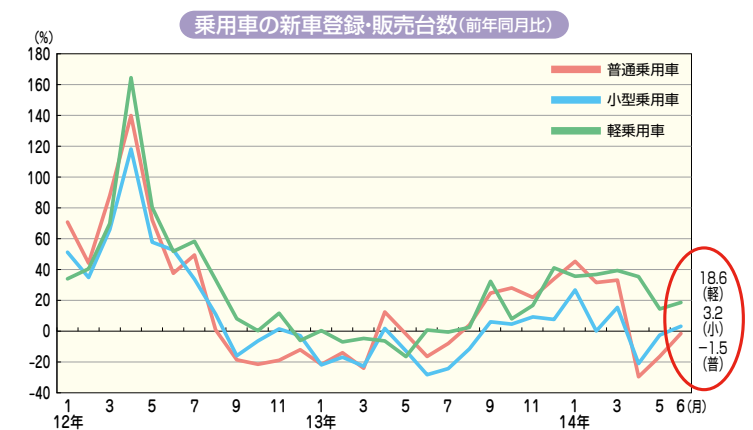
2014年6月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合／大津市／2010年＝100)」は102.6、前年同月比+3.0%、前月比0.0%となり、前月比では横ばいだが、前年比では14か月連続のプラスとなっている。これは、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)の上昇が続いている(前年同月比+8.2%、前月比+0.5%)ことに加え、消費税増税の影響からほとんどの品目で上昇し、なかでも調理食品や室内装飾品、シャツ・セーター類、交通、教養娯楽用品、身の回り用品などが大きく上昇したためとみられる。「可処分所得(同)」は9か月連続のプラスとなり(前年同月比+49.6%)、「家計消費支出(同)」は前月に続きプラスとなった(同+5.8%)。

このような所得・消費環境のなか、消費税増税後3か月目の6月の「大型店売上高(全店ベース＝店舗調整前、対象店舗数は100店舗、前年は93店舗)」は前月と同じ+3.6%となり、3か月連続の3%台となっている。品目別でみると、「家電機器」(同-8.3%)や「家庭用品」(同-7.1%)、「家具」(同-9.0%)をはじめ「衣料品」(同-6.9%)などは引き続き前年を大きく下回っているものの、ウエイトの高い「食料品」が13か月連続で増加し、全体をけん引している(同+7.8%)。一方、「既存店ベース(＝店舗調整後)」の売上高は「食料品」が13か月連続のプラス(同+3.0%)となっているものの、他の品目の大幅マイナスをカバーできず、全体では3か月連続のマイナスとなり伸び悩んでいる(同-0.3%)。消費税増税の影響については、食料品では軽微にとどまっているものの、他の品目では引き続き悪影響がみられる。今後の動向を注視する必要がある。



6月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「小型乗用車(5ナンバー車)」が3か月ぶりに前年を上回り(1,396台、前年同月比+3.2%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」のマイナス幅も大幅に縮小したため(1,451台、同-1.5%)、2車種合計では3か月ぶりのプラスとなり、反動減の影響は薄れてきたとみられる(2,847台、

同+0.7%)。また、「軽乗用車」は11か月連続かつ大幅のプラスとなっている(2,770台、同+18.6%)。消費税増税の影響は軽微にとどまり、引き続き好調に推移している。



新設住宅着工戸数は5か月ぶりのプラス

6月の「新設住宅着工戸数」は679戸、前年同月比+1.8%で、5か月ぶりに前年を上回った。消費税増税の影響が薄れていくかどうか、今後の動向が注目される。利用関係別でみると、「持家」は325戸、同-16.2%(大津市71戸など)で6か月連続の大幅マイナスとなっているものの、「貸家」が201戸、同+15.5%(大津市72戸など)で2か月連続の大幅プラス、「分譲住宅」も153戸、同+47.1%(大津市64戸など)で5か月ぶりの大幅プラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「分譲マンション」は低水準ながら(24戸、前年差+24戸)、「一戸建て」が5か月ぶりの大幅増となった(129戸、同+25戸)。なお、「給与住宅」はなかった。

月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると(5月)、総戸数では676戸、同-13.0%で4か月連続の大幅マイナスとなっている。利用関係別でみると、「持家」は4か月連続(336戸、同-22.9%)、「分譲住宅」は5か月連続(121戸、同-12.9%)のそれぞれマイナスとなっている。一方、「貸家」は4か月ぶりのプラスとなった(216戸、同+9.1%)。

